

十島村教育委員会だより 令和4年10月号

変わりがたカラ情報

南北160km

「心をつなぎ 気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822
鹿児島市泉町13番13号
TEL 099-227-9771

県民週間横断幕：フェリーとしま2

Withコロナ！動き出した十島村の日常生活

十島村教育長 木戸 浩

コロナ禍で、様々な行事が縮小、延期あるいは中止されていましたが、ようやく感染症対策を取りながら、十島村全体が動き出したように感じます。

9月には台風の影響もあり、延期開催になりましたが4つの学校で運動会（体育大会）が実施されました。学校のみで開催ではなく、それぞれの島で話し合いをもち、工夫した運動会を実施し、山海留学生の保護者や地域住民の方々の参加を得て、盛大な大会になったという感想が多く寄せられました。10月に残りの3つの学校も多く参加者を得て、盛大に開催されました。これから予定されている文化祭もそれぞれの島・学校で創意工夫、そしてコロナ対策を行いながら、実施していく予定です。

9月27日には、諏訪之瀬島場外離着陸場の開所式が行われ、3機のセスナ機が諏訪之瀬島に飛来し、学校の児童・生徒はもちろん、島民の方々も大勢参加して盛大な式典が開催されました。そのあと、児童生徒は全員体験飛行で、上空から島の全体を眺めることができ感動していました。今後、島全体のもう一つの玄関口として利用していただけることを期待したいと思います。

トカラ列島島巡りマラソンも3年ぶりの開催で、72人の参加者が口之島を皮切りに宝島まで見事に完走されました。各島からは児童・生徒がたすきを繋ぎ、練習の成果を存分に発揮していました。また、それぞれの島での踊りや太鼓、スチール・パン、パフォーマンスでの歓送迎の様子に、参加者の方々も大変感動されていました。宝島でのウェルカムパーティーも、ソーシャルディスタンスを取りながら、テーブルも4人掛けでパーティションパネルを設置し、コロナ対策をとりながらマラソン参加者及び地元の宝島の方々と共に楽しむことができました。

提供された料理は、各島から持ち寄っていただいた食材で調理していただいたもので、とても美味しく、参加者の皆さんもその味を堪能していただきました。また、練習を重ねたスチール・パンは児童・生徒の演奏の後、大人の方々の演奏も参加者を魅了していました。

9月に実施予定で、台風の影響で1か月延期した宝島小中学校の鹿児島教育事務所と村教委の学校訪問を10月4日に実施しました。学校の授業の様子や自校給食、校内研修等を参観した後に、教育事務所の指導主事から指導・助言等をいただきました。7月の中之島小中学校と、11月に予定している口之島小中学校と今年度3校、合同訪問を実施して、学校のスキルアップを図りながら 県の教育委員会にも十島村の現状を理解してもらっています。

6月と9月に予定していた修学旅行がようやく3度

目の正直で、10月16日に出発しました。中学生1～3年生の合計42人に引率の教師が10人というメンバーで出かけてきました。当初は19日（水）の船で帰島する予定でしたが、荒天のため船が出航できなかったため、2日延泊となり、21日（金）の船便で帰ることになりました。今回の6泊7日の修学旅行は、全国旅行支援事業（Go To トラベル）の対象期間ということで、約2万円分のクーポン券が付与され、中学生は大喜びでした。お土産の買い物等はこれを使ってたくさん買うことができました。一生の思い出に残る修学旅行になったようです。このように、様々な行事等がコロナ対策を図りながら、実施していけると思います。そのためにもそれぞれの島で話し合いを重ね、対応を協議して安心・安全な状況の中で進めていっていただけるとありがたいです。



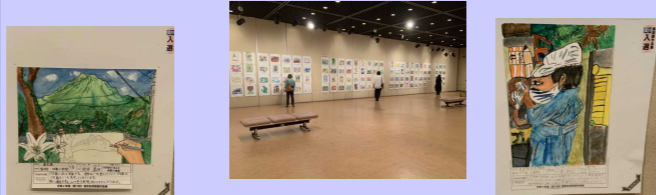
地域が育む「かごしまの教育」県民週間 (令和4年11月1日～11月7日)

口之島小・中学校	11月1日～5日	自由参観
中之島小・中学校	11月1日～7日	自由参観
諏訪瀬島小・中学校	10月29日 文化祭	11月1日～ 自由参観
平島小・中学校	11月1日授業参観(道徳)	11月 5日 学習発表会
悪石島小・中学校	10月29日 学習発表会	11月 4日 秋の収穫祭
小宝島小・中学校	10月30日 文化祭	11月10日 給食試食会

11月6日 宝の夢文化祭 11月15日 黒糖ピーナッツづくり
行事の内容や詳細については、各校教頭先生へお問い合わせください。

おめでとうございます。

鹿児島県図画作品コンクール
【入選】
口之島小学校6年 松田真治さん(左)
小宝島小学校4年 東 和心さん(右)



【展示会場 鹿児島県立黎明館】

【今月の十島パワーにパチリ!!】運動会・体育大会 コロナ対策も万全

【口之島小・中学校】



○当日、児童生徒は、一生懸命に演技してくれました。保護者の方々にも協力をいただきました。また、地域の皆様からも御協力をいただきました。本番を成功させるためには、全力で練習を積み重ねることを、今年も児童生徒に教えてもらいました。(教頭 尾崎成就)

【中之島小・中学校】



○10月8日（土）、好天に恵まれ、中之島大運動会が行われました。地域の方々にもご参加いただき、午後まで競技を行いました。敬老会から未就学児まで、全力で競技に取り組み、中之島が一体となった一日になりました。(教頭 児玉 徹)

○白組の団長に選ばれました。昼休みや放課後に応援演舞の練習に取り組みました。当日は紅白ともに健闘し接戦となりました。白組の勝利に貢献できたことや、リレーの接戦など、たくさんの思い出をつくることができました。(白組団長 濱田一馬)

【諏訪之瀬島小・中学校】



○今年の運動会は、仲間も相手のチームのメンバーもとても良かったと思います。練習初日から、励まされました。今年のスローガンは「協力」がテーマでした。スローガンどおり晴れわたるような運動会にできたと思います。(中学3年 今井若津)

【平島小・中学校】



○僕は悪石島大運動会を通して、大切な宝物を手に入れた。今年には僕にとって最後の運動会。「ありがとう」の気持ちを込めて全力で声を出した。たくさんの出会いをくれた悪石島で、皆で運動会ができたことは一生の思い出になった。(中学3年 相場星南)

【悪石島小・中学校】



【小宝島小・中学校】



○9月24日に、小宝島の秋季大運動会がありました。私の目標は、「自分たちを見てくださる地域の方々も満足できる運動会にする」でした。白組が勝ちましたが、赤も白も全力で頑張って目標を達成できたと思います。(中学2年 岩下和矢)

【宝島小・中学校】



○宝島での最初の運動会でした。雨天での実施となりましたが、午前中は、皆様のおかげで実施することができました。児童生徒の頑張りはもちろんのこと、地域の皆様協力によって実施できている行事の一つだなぁと改めて宝島の良さを感じることができました。(教頭 竹中 裕樹)

シリーズ・・・十島村で学ぶ

【平島で学ぶ】

「平島で感動したこと頑張りたいこと」
平島中学校2年 中村 啓輔

私は中学1年生の4月から山海留学制度を使って神奈川県から平島へやってきました。あっという間に1年が経ち、今、2年目の生活を送っています。私が平島に来て最も感動したことは「海の美しさ」です。最近、私は寮生のみんなや寮監さんと南之浜へシュノーケリングに行きました。東之浜という浜には何度か連れて行って頂きましたが、南之浜は初めてでした。そのため、少し不安な気持ちと期待が入り交じった気持ちでいました。ところが、フィンやマスクを付けて海に入ってみると本当にきれいな光景が広がっていました。少し先へ行くことさらに想像を越えてきれいでした。周りが広く、水が透き通っていて、そこを横切っていく魚たちがいました。平島はどこまで潜っても本当に美しい海ばかりです。また、平島に来てからの私は、以前より学習する習慣が身に付いてきたように感じます。今は特に英語の学習に力を入れています。今の目標は、中学2年生のうちに英語検定3級に合格することです。これからも平島を楽しみながら勉強も頑張っていきたいです。



【中之島小・中学校からのメッセージ】 教諭 河野 英俊

5月、5か月ぶりにシュノーケルとフィンをつけて、旧港の外側の海へ潜りに行きました。やっとシーズン到来！それ以来、天気がよくて潮がよく（120cm以上）、波が静か（1m以下）な時を選んで（もちろん休日や勤務あけです）潜りに行っています。昨年は全部で6頭のウミガメを確認し、動画や写真に収めました。今年はまだ4頭しか確認できていません。コンディションがよければ12月まで潜れるので、今後に期待です。詳しくは、今年度の『教育としま』に書くことにします。

中之島のウミガメに魅せられたことによって、単に潜る楽しみとウミガメの素敵な時間を得ただけでなく、中之島の人たちとの新たなコミュニケーションの扉を開くことができたように思います。

いろいろな方が声をかけてくださいます。「今日も潜るの？ちょっと波があるよ。」「今日はウミガメと会えたの？」「七ツ山でもウミガメを見たよ。」などなど。児童・生徒やその保護者・里親に限らず、それまでお話ししたことのない方からも『ウミガメの先生』と認知されているようです。そして、ウミガメの話だけでなく、学校のことや児童・生徒のこと、昔の中之島のことなどへと話題が広がっていきます。何か1つでも夢中になれるものがあってよかったと思う今日この頃です。



『教職員仲間であるあなた』への 私からのメッセージ

「十島だから」というわけでもありませんが、何か夢中になれるものを持っているというのは、教師にとって”武器”だと思います。その何かを探してみたいかがでしょうか。